

授業をデジタル アーカイブする

教育の質を高めるための
分析手法と資料構成



【学習到達目標】

- 授業分析に必要な教育資料の構成について説明できる.
- 授業分析手法について具体的に説明できる.

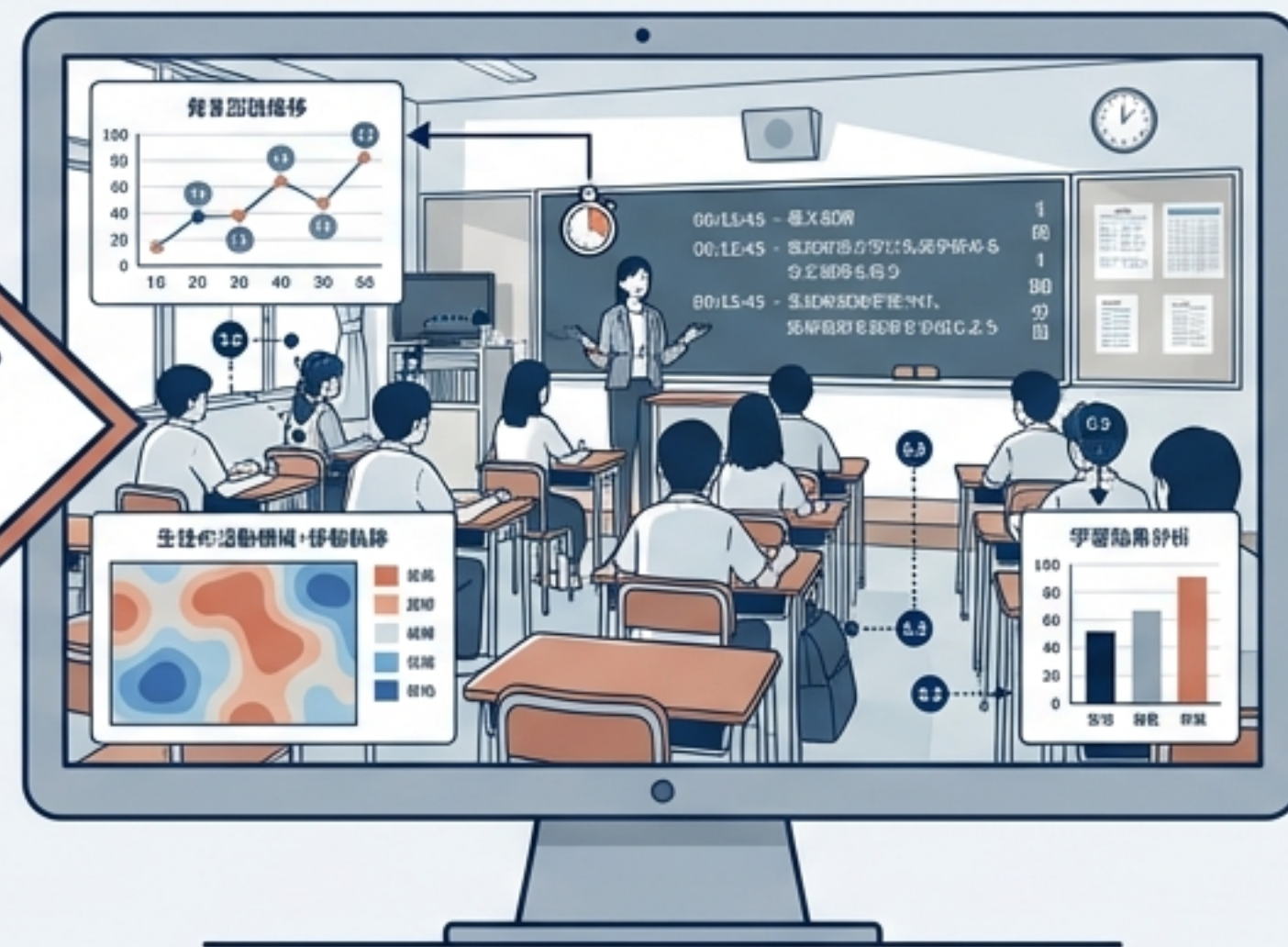
なぜ、「授業分析」が必要なのか？

記憶（主観）



授業は「一過性のもの」。記憶に頼ると、指導の意図と実際の結果にズレが生じる。

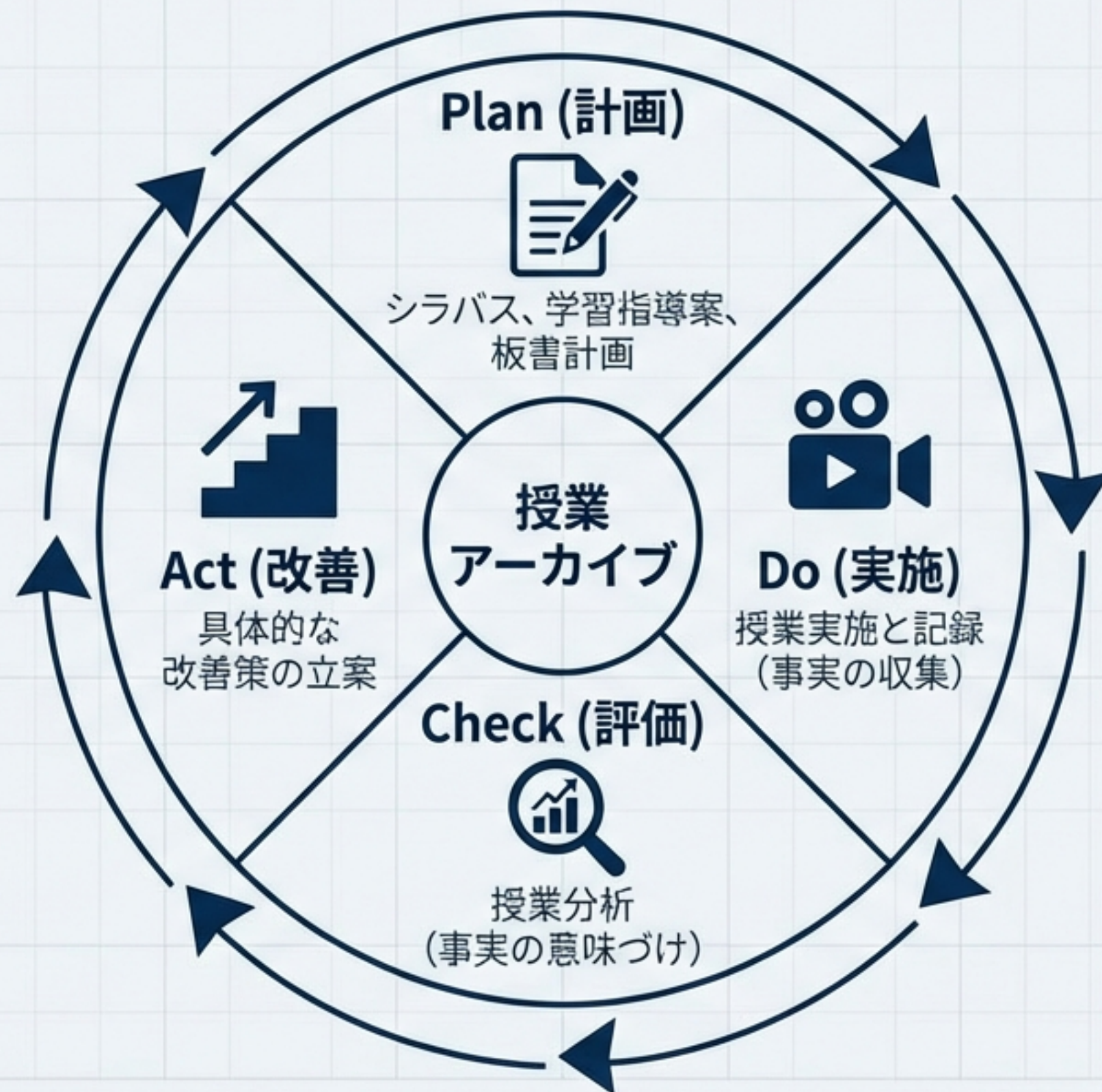
記録（客観）



客観的な事実（ファクト）に基づいて振り返ること
で、「実践的な教員力」と「学士力」を育成する。



授業改善のエンジン：PDCAサイクル



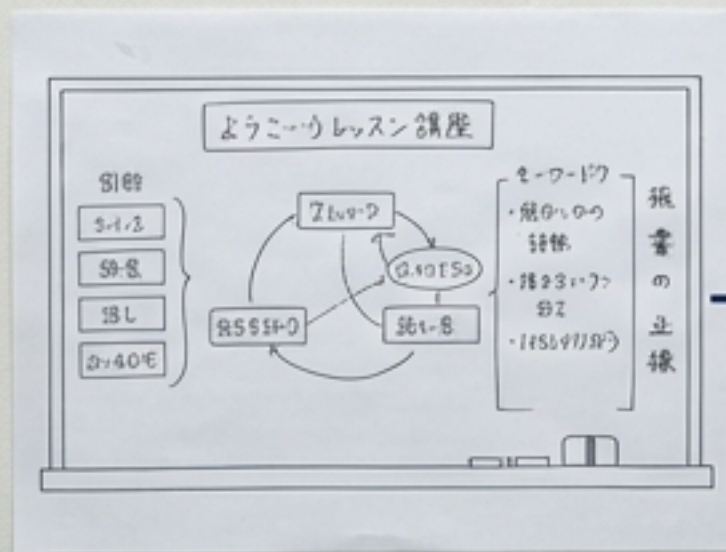
アーカイブは「ビデオ」だけではない

映像（Do）の前に、文脈（Plan）がある。

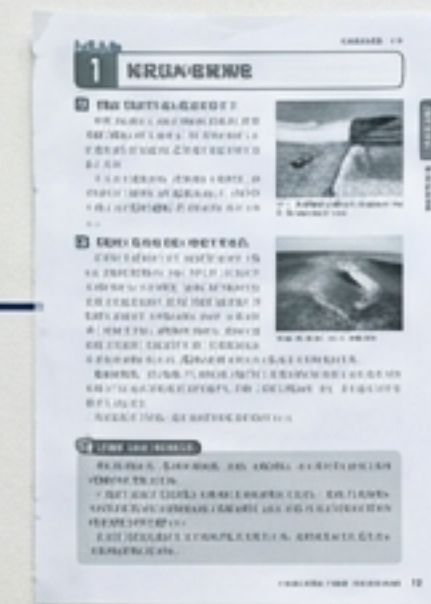
学習指導案

学習指導案	
教科	国語
単元	21世紀、1315 21 2021.5.31
学習目標	21世紀、1315 21 2021.5.31
学習内容	21世紀、1315 21 2021.5.31
学習指導案	21世紀、1315 21 2021.5.31

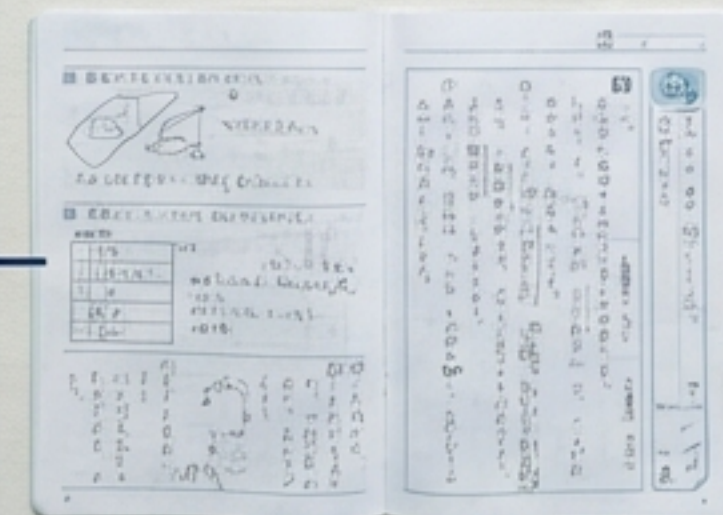
板書計画



教材・配布資料



児童の
ノート・
ワーク



文脈
(コンテキスト)

映像だけでは「なぜその指導をしたのか」は分からない。

映像だけでは「なぜその指導をしたのか」は分からない。計画と結果（資料）が揃って初めて分析が可能になる。

教室の「事実」を多角的に捉える

多視点授業映像



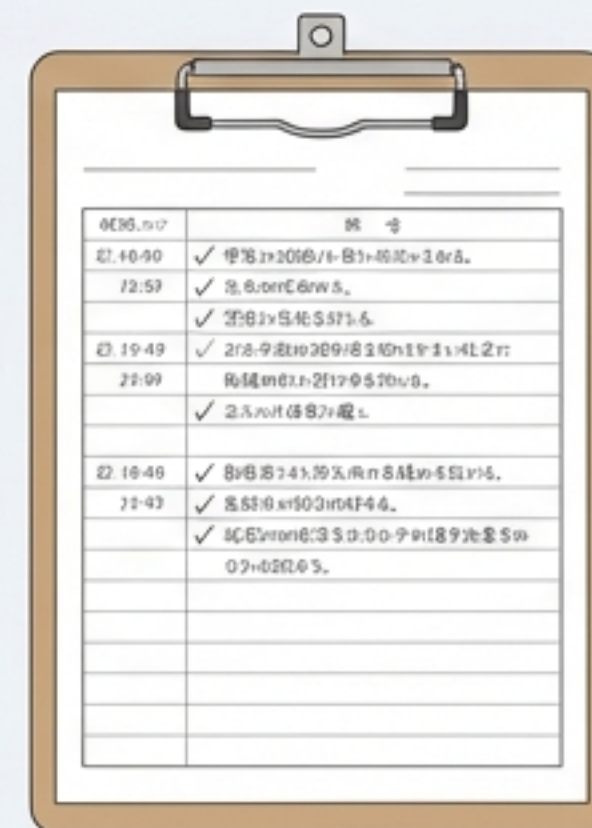
死角をなくし、教室全体の雰囲気と個々の反応を同時に記録する。

授業者インタビュー



「意図」と「結果」のズレを埋めるオーラルヒストリー。

参観者記録



映像には映らない「空気感」や非言語情報を記録する。

評価のトライアングル

授業者 (Self)
自己評価・省察

多角的な
事実の統合
Integration of
multifaceted facts

学習者 (Student)
授業評価・感想

参観者 (Observer)
客観的観察記録

分析のアプローチ：量的 vs 質的

量的分析 (Quantitative)



頻度 (Frequency)
持続時間 (Duration)
統計 (Statistics)
全体構造 (Structure)

「ねらい」に基づいてカテゴリー分類し、客観的な傾向と全体像を把握する。

例：S-T分析、行動分析

質的分析 (Qualitative)



記述 (Description)
文脈 (Context)
意図 (Intent)
意味 (Meaning)

発言や動作の記述に基づき、その行為の背後にある意味や指導の意図を解釈する。

例：発話プロトコル分析

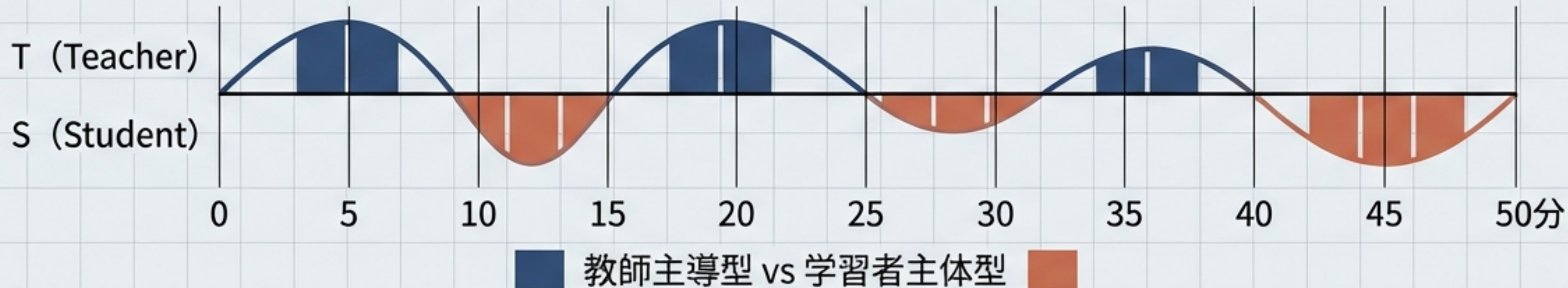
行動分析とS-T分析

授業のリズムと主導権を可視化する

行動分析 (Action Analysis)

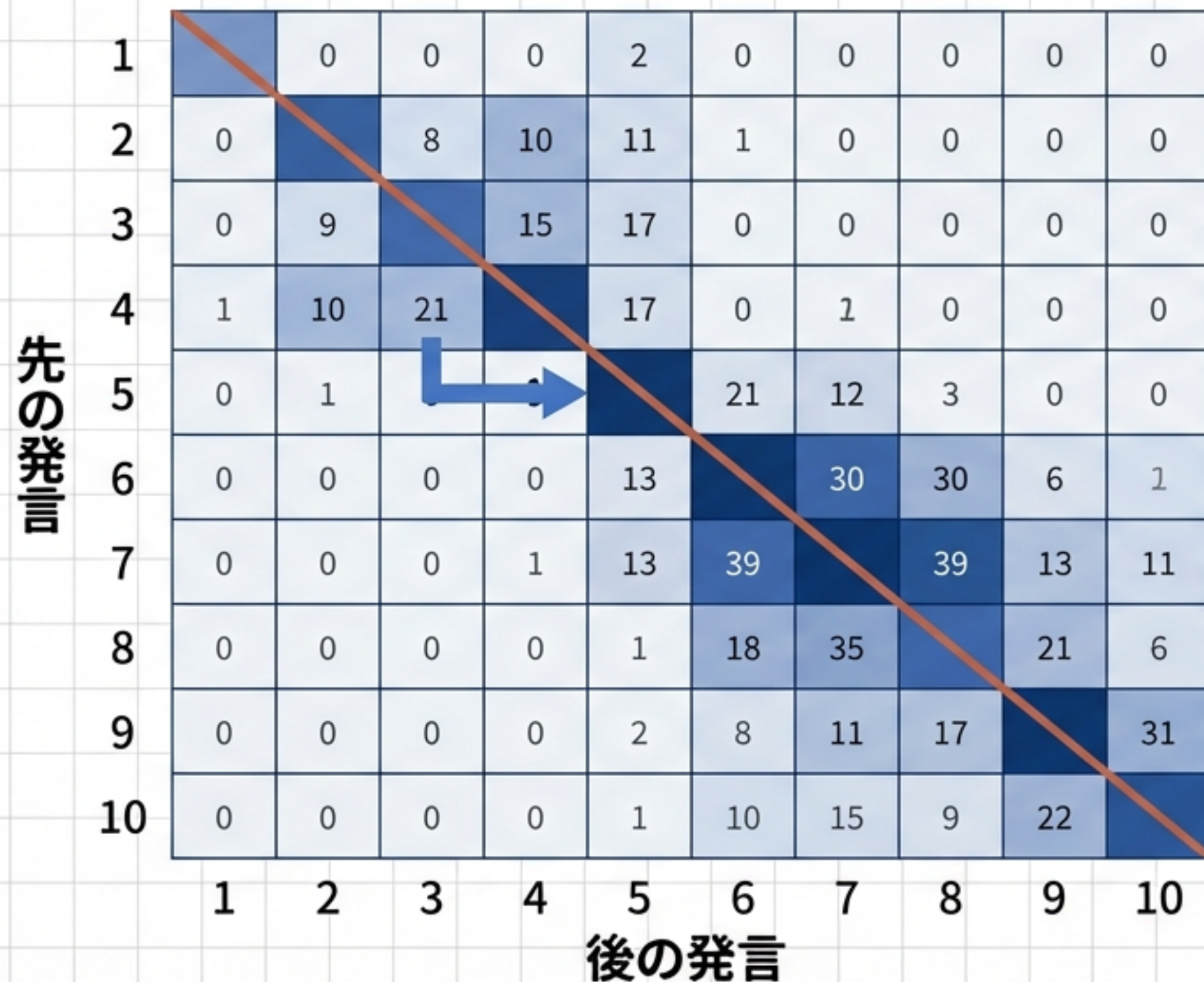


S-T分析 (Student-Teacher Analysis)



コミュニケーション分析（Flanders）

発話の連鎖から「教室の雰囲気」を読む



- 5秒ごとに授業の流れを区切り、前後の発言の関係性をマトリクス化する。
- フランダース（Flanders）によって1970年代に開発された手法。

言葉以外のメッセージ：ジェスチャー分析

授業における非言語的コミュニケーションを分類する。

Iconic
(模倣動作)



人や物の動き・形
を模倣する。

Deictic
(指示動作)



黒板や児童を指し
示す。

Emphatic
(強調動作)



言葉を強めたり、
同意を求める。

Symbolic
(数字・象徴)



数を示したり、合
図を送る。

Thinking
(思考)



考え込む姿勢。

データ例 (Data Example)

ジェスチャー	割合 (%)
Deictic (指示動作)	15.3%
Emphatic (強調動作)	42.8%

ケーススタディ：英国の授業



Stockwell Park High School

Location: London, UK

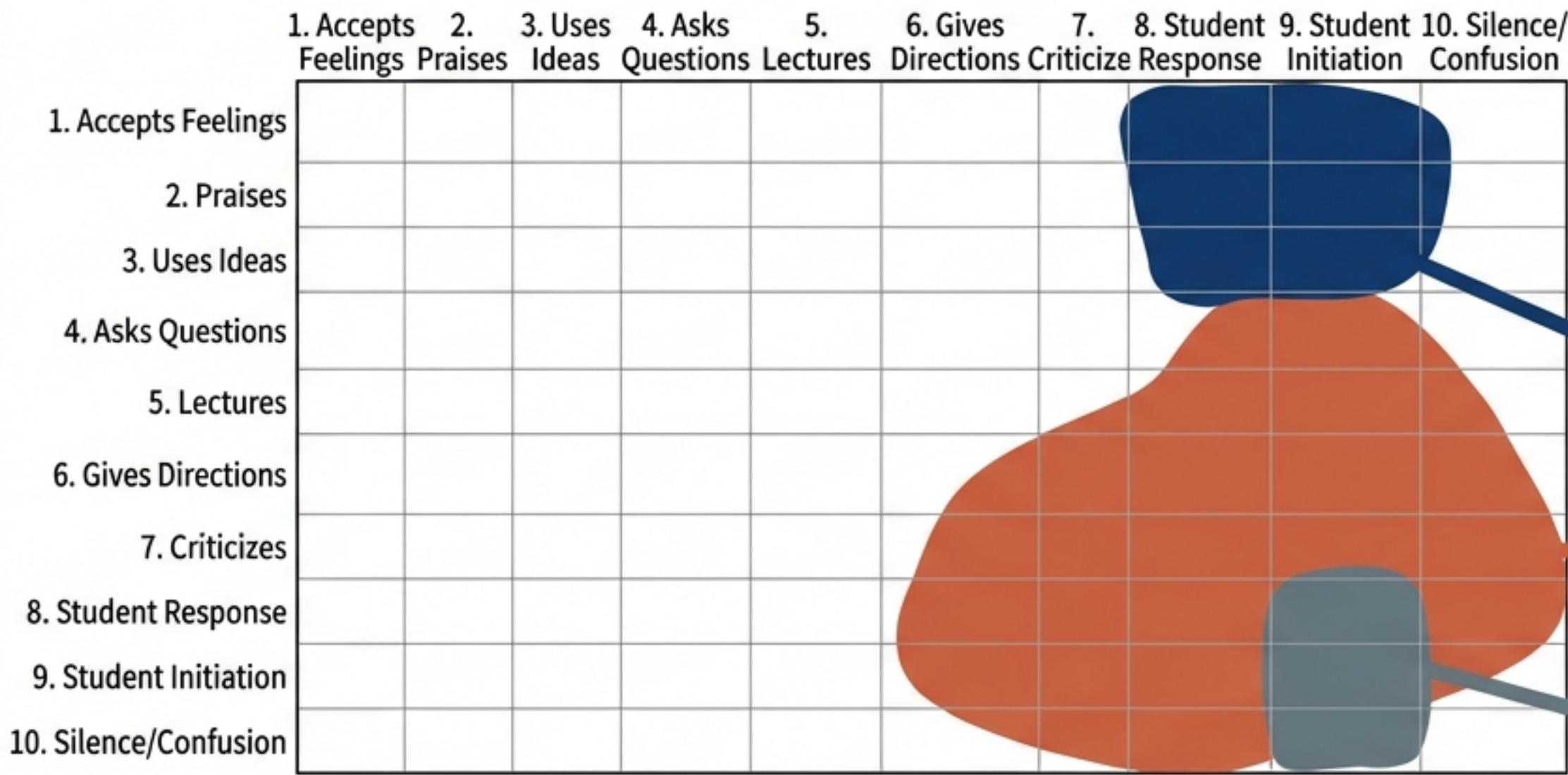
Context:

- 年齢: 11-16歳 (Age 11-16)
- 環境: 多民族・多文化・多言語 (Multi-ethnic/cultural)
- 分析手法: 多視点映像 + コミュニケーション分析
- 目的: 多様な背景を持つ生徒への指導スタイルを解明する。

分析結果が語る「授業の姿」

データが示す高い「児童の自律性」

Flanders Interaction Analysis Categories (UK Class Results)



データ例

カテゴリー	割合 (%)
領域N (Student Activity)	45.6%
領域D (Teacher Response)	18.2%
領域C (Student Speech)	20.1%

領域D - 教師は児童の反応を受けて指導を展開している。

領域N (229ポイント) - 非常に高い数値。児童の自主的な活動が中心である。

領域C - 児童が自発的に発言している。

教師の指示（ファシリテーション）により、生徒が主体的に動く授業スタイルが確立されている。

アーカイブが拓く教育の未来

質の高い教育 (Quality Education)



実践的な力量 (Practical Skills)

熟練者の技術を
客観的に学び、盗む。



比較教育 (Cultural Comparison)

文化による指導法の
違いをデータで
理解する。



継承 (Legacy)

優れた教育実践を
「遺産」として
後世に残す。

本講義のまとめと課題



まとめ (Summary)

授業アーカイブとは、単なる録画ではない。PDCAサイクルに基づき、指導案・教材・映像・評価記録を総合的に管理し、教育の質を高めるシステムである。

課題 (Assignments)

1. 授業分析に必要な教育資料の構成について、具体例を挙げて説明しなさい。
2. 各授業分析手法（量的・質的）について、具体的に説明しなさい。
3. 英国の授業分析（ケーススタディ）を、授業アーカイブプロジェクトの例に倣って行いなさい。

提出期限を確認すること。